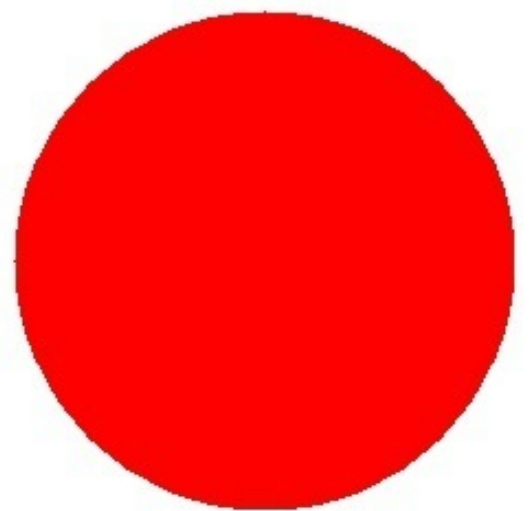
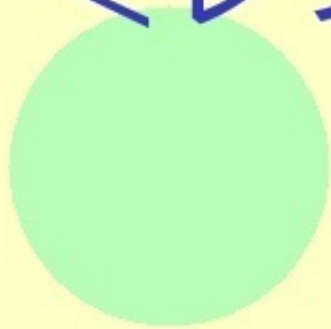


# 今様猿蟹合戦 (長距離射程)

3.11シリーズ VIII-4  
<レンジ：第4話>



咲.

《 長距離射程 ～今様猿蟹合戦～ 》

今は昔。

陸に米あり、海に塩。

東の地に住む、蟹の手に、美味しいオニギリ、あったとき。

「もしもし、そこな村人よ、オニギリよりも、この種ぞ」

都の猿の、甘き声。

その手に乗るは、カクの種。

植えれば億の実、生ると言う。

「早く芽を出せカクの種」

蟹は種植え、世話をする。毎日毎晩、水をやる。

やがて赤い実、たわわに生り、実は猿の住む、都へと。

蟹の囲炉裏に、カクの木あれど、猿が赤い実、独り占め。

「もしもし、そこな都人、その実を我にも、くれ給え」

猿が渡すは、カクの種。

赤い実足りぬと、木を増やす。

熟さぬ青い実、財産と、置き場無きまま、数を増す。

要らぬと言っても、もう遅い。

一度植えたら永の時、枯れても切れぬは、カクの木々。

出番をはやる、屋根の臼。焦って地面へ、落っこちた。

地揺れ、海揺れ、囲炉裏も揺れる。

水桶飛び込む、焼けた栗。炉辺の蜂が、空に舞う。

折れたカクの木、実は腐り、青い実砕け、地を汚す。

「厄災は、遠き話と、うそぶく猿の、都に一矢、報おうぞ」  
栄華のツケぞ、いざ行かん。蜂の群れ飛ぶ、東風の雲。  
雨に降り立つ、猿の都に、巣作り針研ぎ、時を待つ。

カクの木枯れて、残りしは...。  
陸に毒米。  
海に毒塩。  
美味しいオニギリ、今は無く。

猿の手が、持つは未来の、禍根の種ぞ。  
猿の甘言、いつときの夢。  
出待ちの臼は、其処此処の地に...。

おしまい